



Tatsuya Shimizu. *The Growth of the Fruit and Vegetable Export Industry in Peru*

Singapore: Springer, 2022, pp. 78 + xiii.

ISBN 978-981-16-9629-9

ペルーの青果物輸出産業は 21 世紀に入って急成長している。生鮮アスパラガスの輸出で世界一になったあと、アボカド、ブドウ、ブルーベリー of 輸出でも世界で上位の輸出国となった。

ラテンアメリカからの青果物輸出が拡大している要因については、市場の端境期に青果物を収穫し、供給できる点が重要である。それに加えて本書は、ペルーの青果物輸出産業が成長した要因として、次の 3 点を指摘している。

第 1 に、企業による農業への参入と、生産から輸出までのバリューチェーンの統合である。先進国のスーパーマーケットに販売するには、安定した品質、量、価格、納期で供給することが必要となる。さらに輸入国での植物検疫や消費者の安心・安全のためには、生産から販売までのトレーサビリティの確保が必要となる。これを実現したのが、新規に農業分野に参入した企業である。豊富な資金力を活かして、自社の圃場やパッキング場を設け、そこに新しい技術を積極的に導入したほか、輸出や販売に必要なロジスティクスの整備にも力を入れた。さらに販売方法も多様化した。ブローカーをとおして変動する市場価格で販売するだけでなく、あらかじめ先進国の大手スーパーと長期の契約を結んで事前に価格を固定した。これにより計画的な生産が可能になり、生産要素の効率的な利用につながった。

第 2 に、農業の季節性や不確実性といった課題を解決する戦略の採用である。農業は農繁期と農閑期で、労働力、農業機械、パッキング施設に対する需要が大きく変動する。また、気候や病虫害、需給状況の変化による生産量や価格の変動もある。季節性や不確実性のために企業が農業で安定した利益をあげるのは難しい。ペルーの農業企業は国際市場におけるニッチを見つけ、それにあわせて供給する体制を整え、輸出作物を多様化することでこれらの障害を乗り越えた。

第 3 に、民間部門の資源を動員した公共財の構築である。青果物輸出には、植物検疫制度やコールドチェーンなど、個別の企業では準備できない公共財が必要になる。農業企業は作物別の生産・輸出者協会を通じて、民間部門の資源を動員し、これらの公共財の整備に充てた。これにより、新規の市場を開拓し、輸出を増やすことに成功した。

需要にあわせて質の高い商品を安定して市場に届けるバリューチェーンを作り出すことで、青果物輸出は大きな付加価値を生む。ペルーの青果物輸出産業の成長の事例は、一次産品を基盤とした産業発展をめざす途上国にとって、数々のヒントを与えてくれる。

清水達也 (しみず・たつや/アジア経済研究所)